

米政府関与の第一次大戦時緊急住宅供給の意義に関する研究

大 坪 明

(武庫川女子大学短期大学部生活造形学科)

Significance of emergency housing supply during the WWI intervened by the US Government.

Akira Ohtsubo

*Department of Fashion and Living Design, Junior College Division
Mukogawa Women's University, Nishinomiya, 663-8558, Japan*

Abstract

During the First World War, war industry workers faced a severe housing shortage. Therefore, the US government made an intervening housing provision for the workers through the Emergency Fleet Corporation and the United States Housing Corporation. Many housing estates were built by these organizations, and many of them adapted the “garden city” layout. This study explains the significance of these housing estates. It is suggested that the garden city layout was adapted to discourage workers' turnover during the war by improving their total living conditions and their awareness and self-confidence as respectable citizens of the country. In addition, the increased value of these housing estates in accordance with the garden city model was important for the government in recovering the construction cost of these housing estates.

1. 研究の目的

第一次世界大戦前の米国では、住宅確保は個人の責任だったが、同大戦後、特に大恐慌後には住宅供給にも PWA (Public Work Administration) を通じて公的資金が投入された。この転機は同大戦時の政府による住宅供給介入であった。平山が言う様に「政府介入の経験は住宅供給の可能性をめぐる想像力を促進するように作用した¹⁾」のだ。しかしこの住宅供給は住宅改革派の多くの都市計画家や建築家に主導され、以降の住宅供給での政府介入の契機となっただけではない意義があると推察される。本研究は当時の住宅団地建設の意義の多様な側面を解明することを目的とする。

2. 研究の方法

第一次世界大戦時の軍需工場労働者の急増に伴

い、工場近辺での住宅不足が著しくなった。政府は住宅供給を担う機関を設立し、住宅供給を促進させた。本研究では、米国で初めて田園都市概念が導入されたというフォレスト・ヒルズ・ガーデンズと、これらの機関が関与したユニオン・パーク・ガーデンズ、ヨークシップ・ヴィレッジ及びメア・アイランドの3団地を踏査し、また両組織の報告書類^{2~5)}及びそれらの住宅団地に関する文献等から、この戦時期の住宅団地の多くが持つ特徴を抽出し、その性向及び政府介入が必要となった原因や団地計画の主導者達の考えに照らして、これらの団地が持つ多面的意義を考察した。なお、本論文での田園都市的とは E. ハワードの田園都市に沿ったもので、労働者の住環境改善の考えについてはその思想、都市景観面ではそのデザインモチーフを田園都市的と言う。

3. 第一次大戦前の工場労働者住宅の状況

米国での19世紀の移民流入による人口増と、彼ら大都市下層民の劣悪な居住環境は、例えばジェイコブ・リースが1890年に著した「残り半分の人達の生活や如何に“*How the Other Half Lives*”」に見る様に、永らく病や犯罪の温床だった。その住環境改善のためにニューヨーク州は1867年に一定の居住水準を定めたテネメント・ハウス法を制定し、更に1879年に改定したが、効果薄だった。一層の規準強化で下層民の居住水準向上を目指した第一人者ローレンス・ヴァイエールの努力で、1901年に第3次テネメント・ハウス法ができたが、規準強化で住宅価格が上昇し、同規準に合う住宅で救える人数は限定的だとJ.リース等が批判した。ヴァイエールは、高い規制基準が民間企業に安価な住宅建設を躊躇させるとは認めたが、公的住宅供給は民業圧迫と組織肥大による非効率を理由に反対を貫き、欧州諸国の「住宅供給への公的介入」より、配当制限会社等の慈善的組織に期待した⁶⁾。国も住宅改革派が望む欧州方式の採用に否定的だった。しかし底辺の人々は、規準強化で更に悪い環境に住まざるを得なくなったことも事実だった。

一方、住宅不足は第一次大戦前から徐々に進んでいた。自分の地所に恒久的住宅を建設して「自主・自立」性を示す米国人一般の欲求は根強かったが、貧困層の間ではむしろ持家が仕事の選択肢を狭める懸念が広がっていた。それは、当時の住宅での給排水・電気・ガス・浴室・暖房等の設備の一般化による建設費上昇と資材や労務費の上昇等による住宅価格の高騰(1895～1914年の物価上昇20%に比べ、建設費は約50%上昇⁷⁾)も一因だった。次第に住宅投資は利益薄と言う認識が広がり、住宅市場への資金流入が細り、供給量が低迷した⁸⁾。更に資材や労務費の高騰は、小規模な修繕工事では一層顕著で、既存ストックの維持に支障をきたして更に低所得者層の住宅の質的低下を招いた。

4. 第一次大戦時の軍需労働者の住宅不足

上記の様な状況下での第一次大戦開戦による連合国からの特需は、米国の参戦以前に既に経済と労働市場に急拡大と混乱をもたらした。工業界に

は新たな仕事と賃金上昇が広がり、労働者が急増(製造業従事者は1915年の820万人から1918年の1020万人に増加⁹⁾)したが、労働力はまだ逼迫していた。また、造船所や軍需工場周辺の既存住宅では急激に収容力を超えたが、民間資金の住宅建設への投入は細り、資金確保が困難だった。更に米国参戦後の1918年初めに政府が重要でない建設を制限し始め、民間住宅建設は激減した。これらは労働者の住宅不足・過密居住による住環境の悪化を加速させ、それ故に労働力不足に陥る悪循環を招いた。戦争特需による景気拡大は、産業の労使関係も住宅市場も混乱させた。1916年から労働力不足が始まると、就労時間が増える一方で高給を求める転職や同盟罷業も頻発した。労働者のこの様な自由の獲得は労務管理を困難にし、労働生産性が著しく低下した。賃金上昇の一方で、過密居住は著しく生活面の犠牲を強いた。食物、商品、余暇活動や労働時間外の社会生活や家族生活に関する全てが不足した。その様な事態が良好な生活を求める労働者の転職を招き、一方で新規雇用者の恒常的訓練で時間と資金が大幅に浪費された⁸⁾。1918年初頭には、軍需産業集積地での上記の様な住居の混雑や転職の程度が議会で明かされ、国の指導部が処置の必要性を認めた。

5. 軍需労働者の住宅不足への国の対処策

政府は軍需産業での労働者の住宅不足が原因で、戦争遂行が危ういと判断した。住宅対策を米国海運委員会に許可する、いわゆる「住宅法“*Housing Bill*”」が1918年3月に成立し、5月には「国防関連の重要産業に従事する労働者とその家族」に労働省が住居を提供する議案が可決された。一方で、戦時に労働者に住宅を提供する対策が、平時の広範な恒久対策への一步となる危惧から、同法は論争の的にもなった。

商務省は、1917年4月設立の米国海運委員会の中に輸送用船舶建造を促進する目的で設けた緊急商船公社(EFC=Emergency Fleet Corporation)に1918年3月に運輸・住宅部門を創設し、そして労働省は1918年7月に米国住宅公社(USHC=United States Housing Corporation)を設立した。両組織は住宅建設に乗り出す前に輸送を改善し、問題地域での既存住宅の効果的運用に努めた。それでも住宅の逼迫が改善されない地域で、住宅の

新規建設に着手した。EFC は造船会社の不動産子会社への融資で当プログラムを実施した。住宅公社は空き家を登録し、家賃上昇を抑制する「適正家賃」委員会も組織した。両組織は、当初は自ら住宅開発を行うより、むしろ地元業者を通して業務を遂行しようとした。その一方で EFC は融資物件のデザイン管理と運営監視の権能を保持し、USHC も運用を一層単純にするため自らが計画して請負業者を監督し、更に完成物件の所有権を保持することにした。

6. EFC と USHC のプロジェクトとその特徴

短期間に大量の計画が作られ、一部が実施された。1918 年 11 月の休戦後、1920 年 6 月 30 日に同プログラムはほぼ終了し、未完のプロジェクトは廃棄された。最終的に EFC は 9 千戸余り、USHC は目標約 2 万 5 千戸の内の 6 千戸弱を完成させた (Table-4 参照)。また双方で約 1.5 万人の独身男性に仮設宿舎を提供した。家族用住居は、極力魅力的に計画された住宅地の恒久建築だった。戦後にこれらは個人を含む民間に売却された。

Table-5 は計画団地の特徴把握に、道路パターンを景観形成の重要要因として、配置形態を確認出来た EFC の 11 団地と USHC の 59 団地について、その配置を Fig.1 に述べる Grid, T/Z, Garden に分類し、かつコミュニティや生活関連施設の有無を判定したものである。Grid と T/Z が夫々全体の 21.4% と 24.3% であるのに対し Garden パターンの採用は全体の 54.3% に上る。同パターンの採用は、地形に沿う道路建設による造成費削減が理由とも考えられるが、一方で田園都市的考えに基づき労働者の住宅地を改善するという住宅改革派の意図が見受けられる。これは、同パターンでの都市景観の重要性の認識が、田園都市の考えに近い人間性重視と考えられるからである。

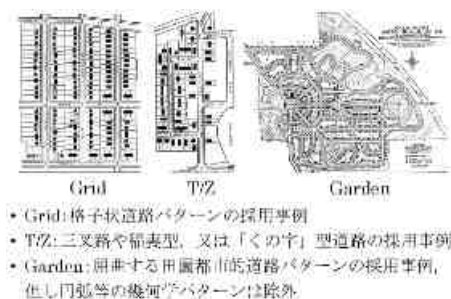


Fig.1 Sample of road layout pattern

Table-5 の 70 例での施設類の有無に関しては、全体の 55.7% で何らかの施設が計画された。Grid では 40.0%, T/Z では 41.1% である。それに対し Garden での施設類の計画は 68.4% にのぼる。施設類の有無は開発規模と周辺でのそれら施設の充足度にも影響され、500 戸以上の計画は 95% が施設類を含む。T/Z は 53% が 200 戸以下と小規模が多く、周辺依存度が高い。Garden は 500 戸以上が 65% と大規模が多い点が施設類の自主整備が多い理由だが、200 戸以下の小規模でも 40% で計画されている。以上から、EFC と USHC が計画した住宅団地は、田園都市的配置パターンの採用が多く、同パターンではコミュニティ施設等の計画割合も高いと言える。

7. 米国における田園都市概念の導入

田園都市の考えは E. ハワードが 1898 年に著した「明日 - 真の改革に至る平和な道」で表明された。それは周知の様に英国近代の「理想社会」追求の一到達点であり、工業が発展する英国大都市での環境悪化と貧困及び都市スプロールに対処し、健康で快適な郊外の出費可能な家での職住近接生活で全人的人格を取り戻すことを目指して、arts & crafts 運動等とも連動し展開された。

米国で田園都市概念が初めて導入された事例は、ニューヨーク市のフォレスト・ヒルズ・ガーデンズ (Forest Hills Gardens 1909 年～, Fig. 2, 3) だと言われている¹⁰⁾。ある財団の住宅開発の試みに、オルムステッド・Jr. (F. L. Olmsted, Jr. 1870-1957 = 後の USHC の都市計画部長¹¹⁾) が全体計画、G・アタベリー (Grosvenor Atterbury, 1869-1956) が建築設計を行った。市中心部から鉄道で約 15 分の立地で郊外開発の先駆だが、高額な土地取得費が災いし、事業的に「中程度の収入と良い趣味の人々」が対象になった。その点では、米国の田園都市は田園都市理論の社会経済的側面が削ぎ落とされ、就業地も都心に依存する「田園郊外」的なものとして始められたことは否めない。



Fig.2 Site Plan



Fig.3 Row House

(大坪)

ところで、オルムステッド・Jr. もアタベリーもジョン・ラスキン(John Ruskin, 1819-1900)の考えや職人の手業や土着性を大切に、芸術と生活の一致を謳い機械文明に対する人間性の回復を目指した arts & crafts 運動の影響を受けていた。一方、19 世紀末に起こった「都市美運動」も当時は影響力があった。Forest Hills Gardens では、arts & crafts 的な雰囲気と、計画面での都市美運動の形式性が認められると言われている¹²⁾。だがそれらのデザイン原理とは別に、アタベリーは「労働者層の住宅は、衛生的で経済的であるのと同様に、魅力的でなければならない」という信念を持ち、両者は「デザインされた環境は個人生活も社会生

活も全体として改善し得る」という考えを持っていた¹³⁾。従って彼らの考えとして、田園都市運動の理想郷と、arts & crafts 運動の精神的背景である居住者の生活改善と全人的人格の回復に寄与することを探求したと推察出来る。

8. 踏査団地の概要と評価

8-1. 各団地の概要

踏査した 3 団地の概要を以下の Table-1 ～ 3 にまとめる。3 団地とも Garden パターンであり、また建築はその細部までデザインされ、街路景観も変化に富んでいる。

Table-1 Outline of Union Park Gardens

ユニオン・パーク・ガーデンズ(EFC)
所在地：デラウェア州ウィルミントン
全体計画：ジョン・ノーラン
建築家：バリンジャー&ペロー事務所

当団地は、フィラデルフィアの南西 40Km 余りに位置するウィルミントンの南西の街外れに、街の延長として機能する様に計画された。入居予定者は地元の造船所に通う熟練工であった。隣接の墓地と公園が南と西の緑地帯を形成し、また敷地に接する街路の対面一皮の敷地も同団地を保護するために購入された。敷地内を斜めに流れた小川(実施時には緑地にされた)に沿って配置された道が、周辺街区の格子状道路パターンを崩し(Fig.8 参照)、街区は当緑地を囲む様に配置された。店舗・公会堂、ゲーム室、体育館、子供の遊び場と裁縫等の女性用の部屋が団地北東部コーナーに計画されたが、戦争終結時に未完だったので割愛された。

屈曲する道路とともに建物外観に切妻破風が効果的に使われて変化に富んだ景観を呈す。中央緑地に面さない街路沿いでは住棟の後退距離を微妙に変えるなど、都市景観構成上の細かい処置が施されている。大部分の住宅は地域の伝統を踏襲した外観を持つ二戸一と連棟住宅で、記録によると 20 タイプの異なる住宅が用いられた¹⁴⁾。非常に細かい細工が付いたポーチ、煙突、屋根窓、切妻壁等の建物の外部意匠、そして煉瓦、化粧漆喰、羽目板等の多様な外壁仕上げ(Fig.4 ～ 7)が、単調さを軽減している。住宅は全て、地下室と温風暖炉を持つ。

EFC と地元の造船会社との共同で設立された事業運営会社(リバティー・ランド社)が、同団地を運営し市場価格で住宅を賃貸することになっていたが、1922 年に各住宅はオークションで希望する単独の買い手に売却され、そこから更に個人に再販された。

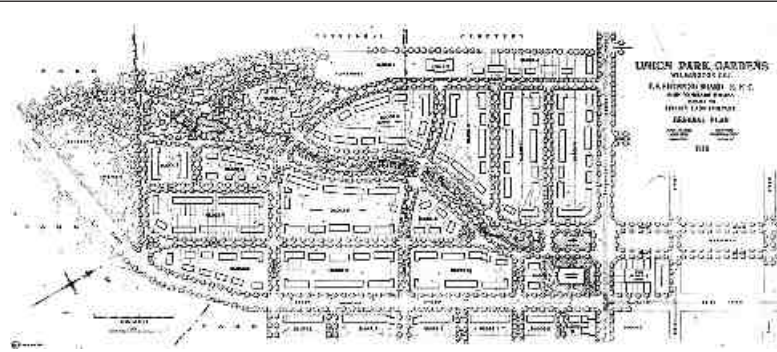


Fig.8 Union Park Gardens Site Plan (1918)



Fig.4 L-shape Row house on a corner



Fig.5 Houses along the central green



Fig.6 The central green



Fig.7 Porch, Chimney, Dormer, Gable

Table-2 Outline of Yorkship Village

ヨークシップ・ヴィレッジ(現フェアビュー・ヴィレッジ) (EFC)

所在地：ニュージャージー州キャムデン

全体計画：エレクタス・リッチフィールド

建築家：ヘンリー・ライト，プリニー・ロジャーズ他

当団地は、キャムデンの南にあった造船所の労働者用に、同市南端の103haの農場に建設された。広場を中心に放射状・同心円状に設けられた道路(Fig.13)は、通過交通を阻む。団地中心の少し南の東西道路にトラムが運行された。

店舗は中央広場周囲に(Fig.11)、教会や学校は中央広場から外れて計画された。中央広場の周囲は機能が多様で、コミュニティの焦点として人々が多様な活動をする場と想定された。現地踏査の際には、広場に余り人影は無かったが、スクールバスから帰宅する子供達が降りてきた時には、出迎えて一時のにぎわいが生まれた。

様々な規模の街区に、住宅タイプ(全27種類)が混在して建設された。2～3階建ての連棟、二戸一、三戸一が主体で、アパートや戸建もある。住宅は小規模(4～8室で6室が主流)だが、全室採光、暖房装置、浴室・トイレ、ガスレンジ、流し、食器棚等が備えられた。隣棟間隔は最小4.9m以上、裏庭の奥行は建物の高さ又は最低6.1m以上：家の裏手相互の間隔は最低15.2m以上離すことが原則とされた。

建築は、同種素材の使用、後退距離の変化によるグループ化等により視覚的統一感と同時に変化がある。また、英国植民地時代の村を想起させる様だ。現在は維持管理が不十分で老朽化した住戸もあるが、元は細部へのこだわりがあり高品質だった。赤煉瓦造、ポーチとマリオン、窓の鎧戸、スレート屋根、建築装飾等(Fig.12)は当時としては高水準のものであった。当団地の建築様式は、フィリップ・ウェブが唱え、レイモンド・アンウインが更に簡素化した手法を見ることが出来るとも言われている¹⁵⁾。当住宅も1922年にオークションで売却された。



Fig.13 Yorkship Village Site Plan (1918)



Fig.9 Row House



Fig.10 Footpath run through a house



Fig.11 Stores facing to the Square



Fig.12 Porch, Gable, Louver window

Table-3 Outline of Mare Island-Georgetown

メア・アイランド・ジョージタウン(現ベイ・テラス) (USHC)

所在地：カリフォルニア州ヴァレーホ

全体計画：パーシー・R. ジョーンズ

建築家：ジョージ・W. ケルハム

当団地は、メア・アイランド水道を挟む対岸の海軍造船所の労働者用に建設された。同水道に面する南西向けの急勾配斜面を含む約 22.5ha の土地に、木造住宅 419 戸(戸建てと二戸一の 2 階建てあるいは 2 層フラット)及び店舗や教会・学校・コミュニティーホールやテニスコート等が整備される総合的計画であった。既成市街地近辺では給水容量に限界があり、安価に利用できる土地も無かったので、急峻な斜面を利用せざるを得なかった。しかし、実際に建設されたのは 227 戸で、残りは戦争終結と共に破棄されたが、その後、当初計画とは異なる周辺の住宅開発が行われた。

道路配置は、基本的には等高線に沿う道路と、それを繋ぎ斜面を昇降する道路で構成される。しかし斜面が急な部分では、地形に沿って屈曲すると共に、昇降方向の道路は勾配を緩くするために、等高線に沿う道路に対して鋭角に取り付く部分があり、変化の多い景観を形成している。従っていわゆる田園都市的な道路配置と言うこともできる。また、団地が建設されてから 100 年近く経過し大きく育った樹木も、地中化された供給処理施設とともに景観形成に大きく寄与している。

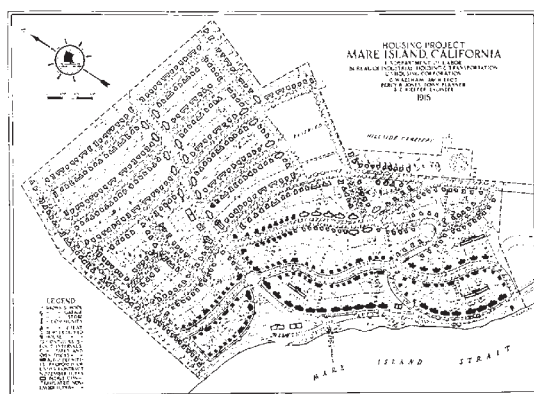


Fig.18 Mare Island-Georgetown Site Plan



Fig.14 Houses along the Wilson Ave.



Fig.15 House along the Benthon Ave.



Fig.16 Houses along the B street

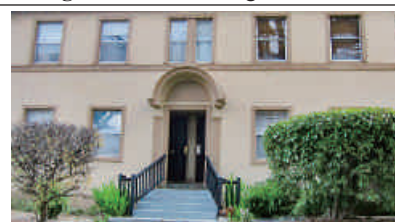


Fig.17 Porch, Arch-formed eave

8-2. 住戸規模・設備について

住戸平面は、3 団地とも 2 寝室～4 寝室型が一般的(Fig.19)だが、フラットタイプでは 1 寝室型もある(Fig.20)。2 階建ての場合は 1 階に居間と台所・食事室、2 階に寝室及び水回の構成が大半だ(Fig.17 参照)。台所と食事室は規模により一体型と分離型がある。住戸規模は、地下室や屋根裏を除いて、小さい 2 寝室型が 80㎡程度、標準の 3 寝室型が 110㎡余りあり、日米の体格差を考慮しても、現在の日本の集合住宅の標準的規模と比べて余裕があると言えるだろう。家賃との連動だが、このゆとりも入居者に魅力だったと推察される。

給排水・ガス・電気・電話等の現代的設備も全て完備し、浴槽まで設けられた点は、前世紀の労働者住宅と一線を画する。勝手口は、接地型住戸

はもちろん 2 層フラット(Fig.20 参照)の場合でも設けられ、厨芥の搬出等に配慮がなされた。

8-3. 踏査団地の評価

これらの 3 団地とも、配置面、建築意匠及び街並み景観面、生活関連施設面、住戸規模や設備面のどれも、従来の民間供給のテナメントや連棟建て住宅等の労働者住宅や住宅地の水準を大きくしのぎ、住民のための様々な配慮や工夫も看取できる。戦時に政府が関与して開発された住宅団地での全体としての居住環境のこの充実、その住民を多方面から満足させ、彼らの全人的な自信や自尊心の回復に大いに役立ったものと推察できる。

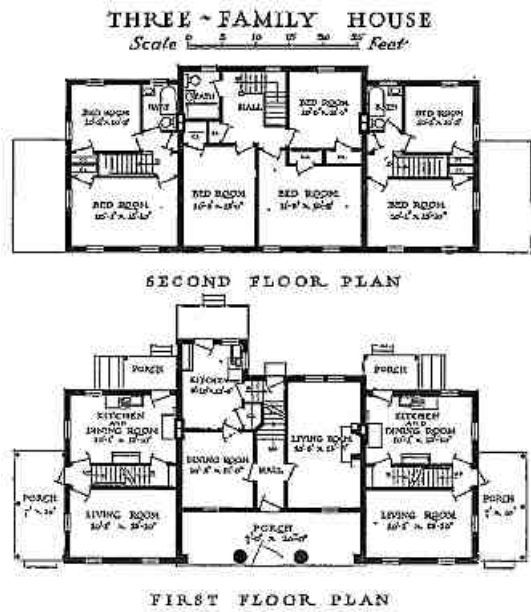


Fig.19 House Plans in Yorkshipp village
Left & right:2-bedroom type, Center:3-bedroom type

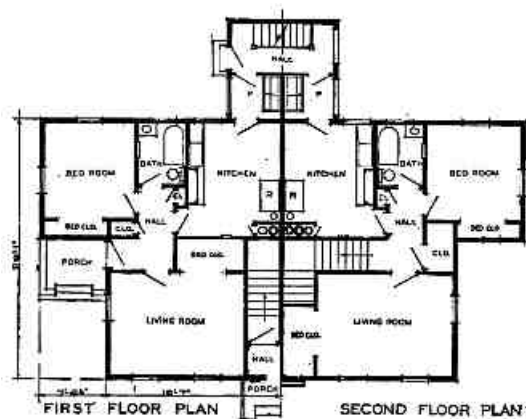


Fig.20 House Plan of Mare Island-Georgetown
Semidetached 2-flat

9. 戦時の政府関与の住宅団地の意義

前述の戦時に政府が関与した住宅団地の意義に関しては、一般的には以下の点が指摘されている。

- ①臨時的にせよ政府が住宅供給に関与したことは、以降の低所得層への住宅供給に政府が関与する道を開いた。
- ②この経験を通して計画・設計者の間に、以降の Regional Planning Association of America (RPAA) 等に繋がる人材と理論が蓄積された。
- ③この様な団地の成功が、田園都市モデルにより住宅改革派の意図、労働者層の居住水準向上と

彼らの家庭生活に対する願望を反映した。

『(前略) USHC と EFC により建設された全ての住宅団地は、概ね田園都市の原則に従ったが、ヨークシップ・ヴィレッジはこれらの計画の、そして住宅改革派の意図の表現で最高のものだと言える。－(中略)－住居の水準は、将来の居住者の家庭生活の必要性和願望を敏感に感じ取って反映された。同様にその設計方針は、労働者階級が小さな住処で示される様な伝統的な社会規範を思い起こさせる建築を熱望していることを深く理解し、それを反映したものであった。』¹⁶⁾

- ④計画・設計側は、コミュニティ活動により居住者間の繋がりを提供しようとした。

『(前略) 19 世紀の理想郷を希求する人達と同様に、戦時の住宅開発者達は住宅団地のデザインがその住民に影響することは当然だと考えた。上述の様にプランナー達は、コミュニティ施設及び良好な近隣地域は、(とりわけ)「心からの」社会階層の繋がりを更に提供すると考えたことも、また本当である。－(中略)－また、地域コミュニティでの生活を推進するプランナー達の熱意は、ある社会階層に限られたものではなかった。』¹⁷⁾

上記の論に加え、筆者は戦時に政府が関与したこれらの住宅団地の配置計画に田園都市的な手法が採用され、都市景観・建築意匠・住戸規模及び設備・コミュニティ施設の充実等に配慮された事が、住民個々の意識に対して与えた影響を指摘したい。

周知の様に E. ハワードの「田園都市」の大きな目標は、a: 労働者層の生活環境の改善、b: 職住近接型小規模自立都市の連携による都市の無秩序なスプロールの解消、c: 地価の上昇抑制、の3点であった。米国の第一次世界大戦時の緊急的な労働者住宅供給に関しては、先ず a の生活環境改善という目標が浮上する。戦時の「田園都市」は、単に衛生・避難・防災という様な最低限の居住水準以上に、住む地域的美観や快適性、コミュニティ施設などを含む総合的な居住環境の提供を目指した。また b に関しては、団地が職住近接であり、大規模団地では諸施設を伴い、ある程度の自立性を持った都市と言うこともできる。c に関しては、ヨークシップ・ヴィレッジの売却に関して

『(前略)ヨークシップ・ヴィレッジの平均区画

の価格は450ドル；平均的住居は2,000ドルだった。ヨークシップ・ヴィレッジが土地価格をかなり低く保ち、戦時中の住宅価格の高騰を抑制したことは明確であった。(後略)』¹⁸⁾と述べられ、その他団地も同様に売却されたと考えると、地価抑制の役割も果たしたと推察される。

4.で述べた様に、転職率の高い労働者を定着させ、労働力を安定的に確保することこそが当時の喫緊の課題であった。それを解決するモデルが「田園都市」的住宅団地だったと考えることができる。即ち、戦時の緊急住宅供給で「田園都市」をモデルとした事例が多かったのは、オルムステッド・Jr.等の住宅改革派を中心に、「田園都市」の精神的背景としての「理想郷」建設が追求され、労働者層が中流階級の享受した状況に近い「都市景観・建築意匠・住戸規模及び設備・コミュニティ施設等が総合的に整備された居住環境」に住むことで、自立した人としての自信と自尊心を刺激され、居住地と仕事にも誇りを持つことで転職を軽々に行わなくなることが、政府関与の住宅供給の目的に適ったと推察出来る点を指摘したい。

更に、住宅供給に政府が今後も関与すべきだと言う考えとは逆に、戦時の処置をまったく一時的なものに限定していた政府としては、この様に団地景観も含めて総合的に住環境が整備された住宅地の価値が、高く評価されことも政府の出費を極力回収するためには重要であった。それはUSHC報告書の以下の記述から見て取ることが出来る。

『(前略)例えば我々は、低い出庇と切妻屋根を持った経済的な赤煉瓦造の二階建て住宅という単純なタイプを団地建設に用いることもできる。様々な都市の通りという通り沿いにこの種の - (中略) - 建築が並び、 - (中略) - 一本調子の壁面線の退屈さを見ていて飽き飽きする。 - (中略) - 我々の完成したプロジェクトでは、これらと同じ簡素な二階建ての建物でも新しい魅力を持っている。 - (中略) - 鍛えられた才能がこの様に共同した結果は、その投資に対して政府に最大の価値を与えるべきであり、これらの住宅を民間投資家に売るときには、それが最良の結果を得ることが出来る様にすべきである。(後略)』¹⁹⁾(下線は筆者による)この点は、労働者住宅には過分だという批判をかかわすための説明でもあったが、政府にとっては資金回収の重要ポイントでもあったと思われる。

最後に、USHCの報告書⁴⁾は、計画された多くの住宅団地の配置図や住宅平面図・立面図、団地によっては排水計画図等を含む多くの図面(Fig.21参照)、更に工種別の概算コスト、各プロジェクトの土地利用割合、タイプ別計画戸数等のデータが収録され、団地や住宅地の設計に携わる人々向けに構成され、市販された。これは恐らくそれ以前には無かったことで、以降の住宅団地の設計者にとって大いに役立ったと考えられる。

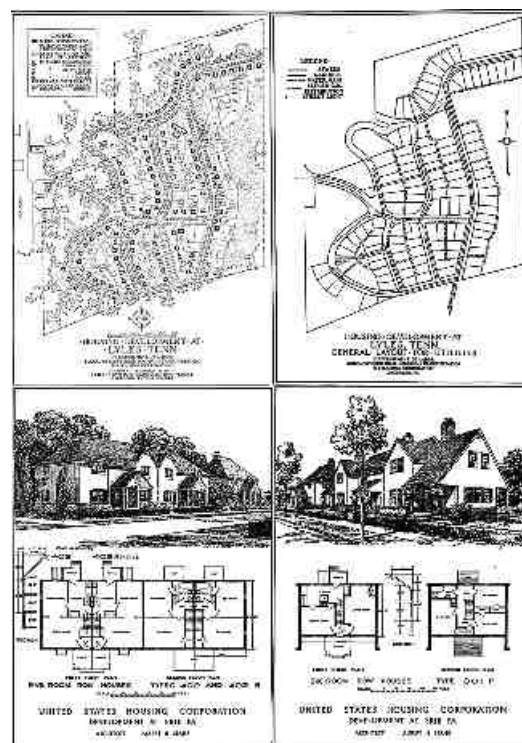


Fig.21 Project Drawings in the USHC Report vol.2

10. 結論

第一次世界大戦中に米政府が関与した軍需産業労働者向けの住宅団地の多くが、田園都市をモデルとして、計画・建設された。その意義は一般に、労働者住宅を改善した点、以降の住宅地計画につながる人材と理論を育んだ点、あるいは計画・設計をする側の想いとして、コミュニティ活動における住民間の繋がりを意識したものであった点が指摘されている。それらに加え、以上のことから筆者は以下の三点を指摘する。

①米国に導入された当時の田園都市は、中流階層の住宅地として想定されていた。労働者達がそれに近い総合的住環境が整った住宅地で、自立した人としての自信と自尊心を刺激され、居住

地に誇りと愛着を持ち転職を軽々に行わないことが政府関与の住宅供給の目的に適った。更にそれらは、「田園都市」の精神的背景としての「理想社会」の提供を目指した。そのために、従来の労働者住宅の水準以上の団地が建設され、またそれらはハーワードの田園都市の目標とする役割をある程度は果たしたと言える。

②この様に総合的住環境が整った住宅地が非常に高評価である事は、売却で政府の出費を極力回収するためには極めて重要な意義を持った。

③ USHC の報告書⁴⁾は、計画団地の配置図や必要施設の設計図の事例や概算コストを掲載し、その後の住宅団地開発に有意義な様に整備され、資料集成として活用された。

特にこの様な総合的住環境の提供に関しては、我が国において大規模災害時に建設される仮設住宅のあり方と比べると、ここに取り上げた米政府関与の第一次対戦時の緊急住宅供給は、同様に緊急事態に対処するために短時間で建設されたものである点を考えると、参考にすべき点が多い。

参考文献

- 1) 小玉・大場・檜谷・平山,『欧米の住宅政策』,ミネルバ書房,京都, p.255, (1999)
- 2) U.S. Department of Labor, Bureau of Industrial Housing and Transportation, "Report of the United States Housing Corporation, Dec.3, 1918", Washington Government Printing Office, (1919)
- 3) U.S. Department of Labor, Bureau of Industrial Housing and Transportation, "Report of the United States Housing Corporation Vol.1", Washington Government Printing Office, (1920)
- 4) U.S. Department of Labor, Bureau of Industrial Housing and Transportation, "Report of the United States Housing Corporation Vol.2", Washington Government Printing Office, (1919)
- 5) United States Shipping Board, "Fourth Annual Report of The United States Shipping Board", Washington Government Printing Office, (1920)
- 6) Roy Lubove, "The Progressive and the Slums-Tenement House Reform in New York City, 1890-1917", University of Pittsburgh Press, Pittsburgh, pp.179-182, (1962)
- 7) Gail Radford, "Modern Housing for America-Policy Struggles in the New Deal Era", The University of Chicago Press, Chicago, p.11, (1996)
- 8) U.S. Department of Labor, Bureau of Industrial Housing and Transportation, "Report of the United States Housing Corporation Vol.2", Washington Government Printing Office, p.16, (1919)
- 9) Gail Radford, "Modern Housing for America-Policy Struggles in the New Deal Era", The University of Chicago Press, Chicago, p.15, (1996)
- 10) Davit Stradling, "The Nature of New York-An Environmental History of the Empire State", Cornell University Press, New York, pp.133-134, (2010)
- 11) U.S. Department of Labor, Bureau of Industrial Housing and Transportation, "Report of the United States Housing Corporation Vol.1", Washington Government Printing Office, p.187, (1920)
- 12) Susan L. Klaus, "A Modern Arcadia: Frederick Law Olmsted, Jr. & the Plan for Forest Hills Gardens", Univ. of Massachusetts Press, Amherst, p.51, (2004)
- 13) Susan L. Klaus, "A Modern Arcadia: Frederick Law Olmsted, Jr. & the Plan for Forest Hills Gardens", Univ. of Massachusetts Press, Amherst, pp.50-52, (2004)
- 14) Margaret Crawford, "Building the Workingman's Paradise: The Design of American Company Towns", Verso, London and New York, p.172, (1996)
- 15) Mary Corbin Sies & Christopher Silver: Editor, "Planning the Twentieth-century American City", John Hopkins University Press, Baltimore, p.137, (1996)
- 16) Mary Corbin Sies & Christopher Silver: Editor, "Planning the Twentieth-century American City", John Hopkins University Press, Baltimore, pp.125-126, (1996)
- 17) Gail Radford, "Modern Housing for America-Policy Struggles in the New Deal Era", The University of Chicago Press, Chicago, p.42, (1996)
- 18) Laurence C. Gerckens, "Landmarks-Yorkship Village (Fairview), Camden, New Jersey", Land Development-winter 1996, http://www.bestinamericanliving.com/fileUpload_details.aspx?contentTypeID=3&contentID=211461&subContentID=523389, (2014/04/09)
- 19) U.S. Department of Labor, Bureau of Industrial Housing and Transportation, "Report of the United States Housing Corporation Vol.1", Washington Government Printing Office, p.19, (1920)

(大坪)

図版出典

Fig.1 : 文献 3 からの抽出した図を組み合わせて構成

Fig.2 : <http://www.flickr.com/photos/8095451@N08/4834968957>
(20140522 11:30)

Fig.3 ~ 7, 9 ~ 12, 14 ~ 17 : 筆者撮影

Fig.8 :

[http://memory.loc.gov/cgi-bin/displayPhoto.pl?topImages=/award/mhsdalad/080000//080088r.jpg&topLinks=/award/mhsdalad/080000//080088v.jpg,&displayProfile=1&type=xml&dir=ammem&itemLink=h?ammem/alad:@field\(NUMBER+@band\(mhsalad+080088\)\)](http://memory.loc.gov/cgi-bin/displayPhoto.pl?topImages=/award/mhsdalad/080000//080088r.jpg&topLinks=/award/mhsdalad/080000//080088v.jpg,&displayProfile=1&type=xml&dir=ammem&itemLink=h?ammem/alad:@field(NUMBER+@band(mhsalad+080088))), (20131030 23:30)

Fig.13,19 : United States Shipping Board EFHC, "*Housing the Shipbuilders*", Philadelphia, PA. , 1920

Fig.18,20 : 文献 3

Fig.21 : 文献 3 からの抽出した図を組み合わせて構成

(Table-4,5 は次ページに掲載)

受稿日 2015 年 10 月 26 日 受理日 2015 年 12 月 3 日

Table-4 Number of planned houses in EFC's and USHC's individual housing estates

立地			家族向け住宅			下宿	寮	ホテル	立地			家族向け住宅			下宿	寮	ホテル
			個別住宅	アパート	計							個別住宅	アパート	計			
EFC (文献 14, p228-229 より作成) (薄墨は踏査団地)									USHC (文献 2, p284-285 より作成) (薄墨は踏査団地)								
New England	Connecticut	Groton	92		92	3	4		New England	Connecticut	Bridgeport	565	324	889			
	Maine	Bath	109		109		4				New London	141		141			
	New Hampshire	Portsmouth									Waterbury	55		55			
		"Atlantic Heights"	278		278		9				Bath	90		90			
Middle Atlantic	New Jersey	Camden "Yorkship Village"	1,578	59	1,637			1		Main	Kittery Point						3
		Gloucester "Noreg Village"	447	1	448						Massachusetts	Quincy	414		414		21
								Rhode Island	New Port		48		48				
	New York	Newburg	127	70	197				Middle Atlantic	New Jersey	New Brunswick	192		192			
		Port Jefferson	9		9		1			New York	Niagara Falls	196		196			
	Pennsylvania	Philadelphia "Island Road"	1,989		1989		16			Pennsylvania	Water Town	115		115			
		Chester "Sun Village"	712	56	768						Erie	317		317			
		Chester "Buckman Village"	278	100	378	1		1		South Atlantic	Philadelphia	650		650			
		Bristol "Harriman Village"	320	212	532		56	1			Maryland	Aberdeen	78		78		
		Essington	200		200		3		Indianhead		100		100		3		
	South Atlantic	Delaware	Wilmington "Union Park Gardens"	503	7	510					Virginia	Cradock	655	116	771		
		Florida	Jacksonville	156		156				Truxtun		250	4	254			
		Maryland	Dundalk, "St. Helena"	296		296				West Virginia		Charleston	85		85		
			Dundalk	529		529	2			Illinois	Rock Island	217		217			
		Virginia	Newport News "Hilton Village"	473	330	803					Moline	117		117			
			Quantico	12		12					East Moline	126		126			
East North Centra	Michigan		Wyandotte	79		79				Indiana	Hammond	185		185			
	Ohio	Lorain	232	8	240		1		Ohio		Alliance	89		89			
	Pacific	Wisconsin	Manitowoc	100		100				Niles	75		75				
		California	Clyde	103		103			1	West North Central	California	Vallejo	227		227		10
	Washington	Vancouver	20		20			1	Iowa		Davenport	189		189			
									Pacific	Washington	Bremerton	245	45	290			1
合計			8,642	843	9,485	6	94	5	合計			5,421	489	5,910		34	4

(大坪)

Table-5 Road layout pattern & planned scale and facilities of EFC's and USHC's housing estate

プロジェクト名	現存	Pattern	戸数	寮等 _人	面積 _{ha}	Co	プロジェクト名	現存	Pattern	戸数	寮等 _人	面積 _{ha}	Co
EFC (薄墨は踏査団地)													
Portsmouth, N.H. "Atlantic Heights"	○	Ga	278	407	32	○	Bristol, Pa. "Harriman Village"	○	Gr	532	2,300	約34*	○
Camden, N.J. "Yorkship Village"	○	Ga	1,637	-	103	○	Willminton, De. "Union Park Gardens"	○	Ga	510	-	23.4	○
Gloucester, N.J. "Noreg Village"	○	T/Z	448	-	約65*	○	Dundalk, Md.	○	Ga	529	-	約29.4*	×
Newburg, N.Y.	○	T/Z	197	-	9.4	×	Dundalk, Md. "St. Helena"	○	Gr	296	-	約8.4*	×
Chester, Pa. "Sun Village"	○	T/Z	768	-	約27*	○	Newport News, Va. "Hilton Village"	○	Gr	803	-	38.4	○
Chester, Pa. "Buckman Village"	○	Ga	378	292	約13.4*	○	面積欄の*印は図上計測による						
USHC (薄墨は踏査団地)													
Aberdeen, Md.	△	T/Z	80	60	10.7	×	New London, Conn.	△	T/Z	163	-	8.6	×
Alliance, Ohio (South)	△	Gr	213	-	25.1	×	New Orleans, La.	×	Ga	209	-	17.4	○
Milton Hill, Ill. "Alton"	×	Ga	200	485	14.8	○	New Port, Rhode Island	○	Ga	68	-	2.8	×
Bath, Me.	○	Gr	90	-	3.7	×	Newport News, Va. "Hilton Ext."	×	Ga	465	-	31.7	○
Bethlehem, Pa.	△	Ga	1,258	-	69.1	○	Newport News, Va. "Briarfield"	×	Gr	530	-	38.9	○
Bridgeport-②, Conn. "Black Rock"	△	T/Z	216	-	2.7	×	Niagara Falls-B, N.Y.	×	Gr	198	-	8.8	×
Bridgeport-④, Conn. "Conn. Ave."	○	T/Z	108	-	1.2	×	Niles, Ohio	○	T/Z	117	-	10.2	×
Bridgeport-③, Conn. "Crane Tract"	△	Ga	377	-	10.0	×	Cradock, Va.	△	Ga	1,235	2,032	125.7	○
Bridgeport-①, Conn. "Grasmere"	○	T/Z	101	-	4.0	×	Glenwood Park, Va.	×	Ga	648	-	32.1	○
Bridgeport-⑤, Conn. "Mill Green"	○	Ga	207	-	8.2	×	Truxtun, Va. "Norfolk"	○	Gr	253	-	17.5	○
Bridgeport-⑥, Conn. "Cemetery"	×	T/Z	212	-	3.5	×	Pensacola, Fla.	×	T/Z	135	50	14.3	○
Butler, Pa.	×	Ga	167	-	8.7	×	Perth Amboy, N.J.	×	Gr	156	-	2.7	×
Charleston, S.C.	×	Ga	156	30	12.4	○	Philadelphia, Pa. "Penna" (Oregon Av.)	△	Gr	696	-	14.8	○
South Charleston, W.Va.	×	Ga	87	-	6.6	×	Philadelphia, Pa. "Penrose Ave."	×	Ga	1,105	-	38.1	○
Chester, Pa. "Eddystone"	×	Ga	1,128	608	67.8	○	Philadelphia, Pa. "Tacony"	×	Gr	268	-	6.7	×
Ridley Park, Pa.	×	Ga	565	-	21.9	○	Port Penn, Del.	×	Ga	600	3,000	121.4	○
Dayton, Ohio, "Edgemont"	×	Ga	787	-	43.7	○	New Site, Del.	×	Gr	同上	同上	131.5	○
Erie, Pa. "Penna East"	△	Ga	223	-	11.0	○	Light House Site, Del.	×	T/Z	同上	同上	151.8	○
Erie, Pa. "West"	△	T/Z	499	-	29.1	○	Portsmouth, N.H. "Kittery, Me."	×	Ga	64	150	8.3	×
Hammond, Ind.	○	Ga	174	78	7.9	○	Puget Sound, Wash. (outside)	×	Ga	286	-	25.7	○
Ilion, N.Y.	×	Gr	130	168	6.9	×	Quincy-1, Mass. "Arnold St."	○	Ga	127	-	7.4	×
Indianapolis, Ind.	×	T/Z	22	-	1.6	○	Quincy-2, Mass. "Baker Yacht Basin"	○	T/Z	236	-	8.8	×
Indian Head, Md.	×	Ga	190	1,400	73.2	○	Quincy-3, Mass. "River St."	○	Ga	39	-	3.7	×
Dahlgren, Va.	×	Ga	82	460	67.4	○	Rock Island, Iowa. "McManus"	△	Ga	267	-	19.1	×
Lowell, Mass. "Livingston"	×	T/Z	40	-	2.4	×	Richmond, Va. "Seven Pines"	×	Ga	862	3,290	102.1	○
Lyles, Tenn.	×	Ga	110	40	21.7	○	Sharon, Penn.	×	Ga	215	-	19.5	×
Vallejo, Cal. "Mare Island"	△	Ga	419	-	22.4	○	Staten Island, N.Y.	×	Gr	76	-	3.7	×
Muskegon, Mich. "McGraft"	×	Gr	248	-	18.5	×	ワシントンでは既存街区に建設のために割愛						
Pittsburgh, Pa. „Neville Island"	×	Ga	2,000	-	202.4	○	Waterbury, Conn. „Sylvan Ave."	△	Ga	135	-	7.3	×
New Brunswick, N.J.	△	Ga	397	300	17.4	○	Watertown, N.Y.	△	T/Z	302	205	19.4	○

・EFCについては、現存する団地で Google Map 上で位置・形状が確認できた配置を基に、USHC については文献 2 掲載の団地配置図を基に作成

・現存：○＝現存、×＝現存せず、△＝部分的に現存(文献 2 及び Google Map により確認して判断した。)

・Pattern：Gr＝Grid パターン、T/Z＝T/Z パターン、Ga＝Garden パターンの配置を採用

・Co：コミュニティ施設(店舗・学校・図書館・病院・劇場・住民集会所・野球場やテニスコート等のいずれか)がある場合＝○、無い場合＝×